

(2)「疑似体験の次に（動画の活用）」

事業名 福祉教育推進校事業（視覚障がい 当事者のお話）

実施団体 名称 社会福祉法人東海村社会福祉協議会

所在地 茨城県那珂郡東海村村松2005

TEL 029-282-2804

メール tokai@t-shakyo.or.jp

記入者 助川 愛理、川上 有里

1 ねらい

日常生活の様子が分かる動画（調理、洋服選び、仕事、日常生活道具等）を視聴することで視覚障がい者の生活の様子を知る。また動画や当事者からのお話を聞いて生活する上で工夫している点や注意してほしい点を学ぶことで視覚障がい者への理解を深める。

2 事業内容（活動内容）

授業の流れ

- ①自己紹介、生い立ち
- ②どのような工夫をして生活しているのか動画を見る
動画 調理（16分）、洋服選び（6分）、仕事（2分）
- ③視覚障がい者を手助けしてくれる道具（日常生活用具）を知る
実物紹介＋動画 日常生活道具（3分）
動画の合間に質問時間を設け、当事者（ゲストティーチャー）に回答してもらう。

3 成果・効果

これまでの福祉体験学習では車いす体験やアイマスク体験等、疑似体験を実施する学校が多く、子ども達から「目が見えなくて怖かった。」「障がい者は大変そう。」とマイナスイメージの感想が多く聞かれた。またカリキュラムの中に「当事者のお話」という授業があり、実際に当事者の方に学校まで来ていただき、日常生活道具の紹介や野菜の皮むきの実演をしてもらっていたが、料理の過程や自宅での生活の様子を伝えることができなかった。

しかし、今回のカリキュラムを実施したことで、今までの授業では伝えきれなかった自宅での様子を動画で見ってもらうことができ「目が見えていないように思えない。」「工夫しながら生活していた。」等の感想も多く聞かれた。当事者の強みを知り、工夫すれば自分たちと同じように生活できるという意識に変わった。

4 今後の課題

例年疑似体験を希望する学校が多いのが現状となっており、疑似体験だけでは「障がい者でなくてよかった。」「障がい者は大変そう。」というマイナスイメージを持たれやすい。福祉体験学習のカリキュラムの中から学校側が選択して体験を実施しているが、全ての推進校で本プログラムを導入していただいたわけではないため、「当事者の話」も授業に組み込んでもらうために、アイマスク体験を実施した学校は当事者の話（視覚障がい）も必ず実施できるようなプログラムを検討していきたい。

◆準備からふりかえりまで

①当事者へ相談及び撮影内容の検討

自宅で動画の撮影が可能か当事者の方に相談し撮影内容を検討

②自宅で動画を撮影

- ・事前に質問事項を考えておく

③撮影した動画を編集

【調理】【洋服選び】【仕事】【日常生活用具の紹介】にそれぞれ分け、字幕の解説を付ける。

④学校との打合せ（授業日の1週間前程度）

- ・授業の流れや内容、準備物の確認を実施
- ・授業後、感想文提出依頼

⑤授業

- ・自己紹介、生い立ち
 - ・どのような工夫をして生活しているのか
- 動画を見る
- 調理（16分）、洋服選び（6分）、仕事（2分）
 - ・視覚障がい者を手助けしてくれる道具（日常生活用具）を知る
 - 動画：日常生活道具（3分）

⑥感想文提出



お肉は小さく、玉ねぎはしんなりしているか箸の感触や匂いで判断しています。

1つ1つの動画を長くしてしまうと、視聴する学年によっては集中力が切れてしまうので動画が長くないよう注意した。

当日の流れ・準備物を学校側と再確認。プロジェクターとiPadを繋ぐため、接続がうまくいくか確認しておく。

動画を連続して流すと、子どもたちの集中力が切れてしまうため動画の合間に質問時間を設ける。

◆感想など（小学4年生の感想：原文）

「目が見えていないのに、見えているようにじょうずに包丁をつかっていることにおどろきました。目の代わりに指や耳や鼻をつかって工夫して生活をしていることがわかりました。」
「服の形などで色やもよう、どんな服だったか覚えているのがすごいと思った。」

◆連携団体やキーパーソン

学校、当事者（視覚障がい者）